

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドサポートこばん			
○保護者評価実施期間	令和8年1月9日 ~			令和8年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数)	31名
○従業者評価実施期間	令和8年1月9日 ~			令和8年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1人ひとりに合わせた、個別活動・集団活動を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの興味や発達に合わせて、個人の活動の予定を立てている。 ・季節に応じた集団活動を行っている。 ・スタッフ会議や夕礼、日々の業務の中で支援について話し合う場をたくさん設け、職員全体で支援を考えている。 	子どもたちが成長できるように、また楽しく過ごせるように支援を日々一生懸命考えている為、その結果としての子どもたちの様子を、ICTを活用したりしながら、保護者が負担なく安心して確認できる方法にしていきたい。
2	特性に合わせた、コミュニケーション方法を取り入れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動や遊びなどを写真にして、選びやすくしている。 ・個人のスケジュールや時間を視覚化して、見通しを持って過ごせるようにしている。 ・必要に応じて、活動やおやつの場所を分けて構造化しどこで何をするか解りやすくしている。 ・定期的に専門家の研修やアドバイスを受けている。 	常に見直しを行い、よりご本人が解りやすいツールや支援方法を探っていく。
3	保護者へのサポートの意識が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・他児業とのケース会議、学校や相談員との状況共有を行っている。 ・お迎えの際に、保護者の方が安心できるような子どもの様子の伝え方をしている。 ・事業間を超えて保護者同士の反し合う場を設けている。 ・保護者向け研修会を行っている。 	子どもたちの日々の変化を、職員が敏感に感じながら、言語化し保護者にお伝えしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちとの交流が不足している。	児童クラブや他事業所との接点が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見を聞きながら、プライバシーに配慮して取り組んでいく。 ・ケア会議などで関わった他事業所と交流の機会を作っていく。 ・身近な児童クラブに声をかけていく。
2	保護者同士の交流が少ない。	保護者同士が関わる機会がない。	<ul style="list-style-type: none"> ・くるみ会員の周知を図っていく。 ・保護者の意見を聞きながら交流の機会を検討していく。
3	非常時の対応について周知できていない	避難訓練の実施曜日以外の保護者への情報共有方法 お知らせ以外での伝達方法が不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSでも発信している事を再度伝えていく。 ・モニタリングや面談時など、定期的に説明していく。